

人材育成による地域再生

# 『西予開成塾』の取り組み

## — 自ら考え、自ら学ぶ —

人口減少・高齢化が進む地域を再生するためには、教育、経済振興、そしてまちづくりが一体となった取り組みが肝要ですが、昔から教育熱心な愛媛県西予(せいよ)市では、特に“人材育成”に重きを置いています。その象徴が天才児教育(創造性教育)・スーパーキャリア教育を実践する『西予開成塾』。平成27年度(2015年)より次代を拓く人材育成を目指し、西予市と愛媛大学が連携して開塾したもので、「子供も大人も同時に育成できなければ地域は変わらない」という見地から、子供の教育と同時に大人の育成も行っています。そこで今回、私たちAPPLICは、実際にどんな教育を施し、どのような人材を育てているのか、現地を訪れ、塾長を務める愛媛大学社会連携推進機構の坂本世津夫教授を取材させていただきました。

西予開成塾ホームページ : [西予開成塾通信／西予市](#)

検索

### 『西予開成塾』のバックボーン

明治2年(1869年)、現在の西予市宇和町卯之町に「大師堂」(真言宗の寺院)を開き、子弟を教えていた左氏珠山が、藩主・伊達宗城の命により宇和島藩校明倫館の教授として卯之町を去ることに。これを機に珠山の門下生や町民の有志によって「申義堂」が建てられ、1872年(明治5年)、開明学校(四国最古の小学校)として開校された。『西予開成塾』は、その開明学校を模範とした現代版「申義堂」である。



大師堂

## 開塾に至るまでの流れ

明治維新という激動の時代の中、人材育成を目的に開校された「申義堂」開明学校と同様に、『西予開成塾』も平成、そして令和へとの揺れ動く時代の中で、“教育こそ肝である”という考え方から開塾されました。テーマは、地方を活性化させる創造力豊かな“異能人材”を育てること。従来の知識偏重型詰込み教育ではなく、物事を多方面から観察しながら意味を正しく理解し、適切に処理する能力醸成を目指して、20名定員制で地域の小学生5・6年生(大人の部もあり)が学んでいます。地域の教育関係者のみならず経済界、まちづくりに携わる人々もこの考え方の重要性に同調し、開塾を積極的にサポートしており、当初は取り組み内容を説明するため西予地域の各小学校を回り、主旨に共感した親子が参加するという地道な活動を行っていましたが、現在ではその活動が浸透し、同塾を切望する方が増えているそうです。

授業風景(プログラミング学習)



## 取り組みの主旨と方向性

同塾の核となる教育は、「物事を理解し適切に処理する能力」＝「物事を正しく判断する能力」を身につけさせること。「本当に重要なことは、知識の“習得”よりも、知識を“知恵”に変える能力。目指すは、異能人材、そしてスーパージェネラリストになりうる人材の育成」だと坂本塾長は強調します。日本では、単一分野でのスペシャリスト性だけが重視されてきたため、複雑化する社会問題に対応できる人材が不足しているのが現状。だからこそ、複数の分野でスペシャリスト性を持ち、それらを自己管理していく能力を育てることが急務であり、それを気づかせる教育を同

授業風景  
(伊予生糸作り  
体験学習)



『西予開成塾』がある卯之町の  
レトロな町並み

塾で行っています。中でも重視しているのが、コミュニケーション能力。坂本塾長によると、「必要最低限の言葉で相手に自分の意思を伝えられること(言葉の選択能力)、そして質問する力とともに聞く力も備え、相手の意図を察すること」、この2点を育成するために、自分に対して自分の思いや感情を言葉にして書く“つぶやきスタイルの日記”を必須にしているとのことでした。

なお、地域再生を掲げる中で、坂本塾長は、「目的意識を持って外の世界に飛び出し、見聞を広め、現実社会を知ることも大切。若者が大学進学を契機に都会へ出ていくことも許容すべき」だと理解を示している点も特筆しておきます。

※その他、具体的な授業内容はホームページをご参照ください。

## 総 括

坂本塾長は、「自分で考え、自分で学ぶ子供が徐々に育っている」と手応えを感じている様子。その要因を聞いて見ると、「子供自身がどうなりたいか、どんな大人になりたいのか、そのためには何をすればいいのかを、子供自身に考えさせることが基盤にあるから」とのこと。第1回目の教室から帰った子供が、早速「自ら学ぼう」という行動変容を興すのを目の当たりにした親から「驚きの声をたくさん聞きました」と笑顔を見せる坂本塾長。自分の物差しを持ち、自分で考え、それを具現化するために自分で計画する、という姿勢が自然と醸成されるところは、大いに注目すべき点といえるでしょう。今後は3年間隔で同塾の卒業生を集めて勉強していく予定だそうですが、せっかく育てた“若い芽”が摘まれないよう、こうしたケアも大人に課せられた重要な役割といえます。